

神奈川 山梨教会連合会報

# かりん

福田明先生は、昭和三十五年十二月二十八日に岡山県才崎教会でお生まれになりました。学院卒業後、昭和六十二年三月に神奈川教会 福田光一先生とご結婚され、すぐにご夫婦で後継者の居られなかった川越教会の御用に向かわれました。そこで二男一女を授けられ、十七年間御用に仕えられて後、神奈川教会へ戻って来られました。現在は、神奈川教会で教会長俊雄先生と光一先生と共に御用をされています。

☆ご結婚されて、いきなり川越教会へ、しかも若いご夫婦が御用に向かわれたことには、大変なことも多々あったのではないですか。

明先生(以下明) そうですね。知り合いが居なかったので寂しかったりしました。子どもの出産・子育てなども大変でしたが、ご信者さんがお手伝いして下さったり、ご近所の方が良くして下さいたりして、本当に助かりました。次男の出産の時などは、夜中に陣痛がきたので寝ている上の子二人を置いて、主人に病院へ連れて行ってもらったのですが、その間に

起きてしまい、泣いていたそうです。しかし仲良しのご近所さんが子ども達の所に来て下さり、抱っこして主人が帰るまで待っていて下さったこともありました。その時は、とても嬉しく有り難かったです。また、川越教会に参拝されているご

川でスベって山でコロんで……とってきました

## Interview

第15回 福田 明先生 (神奈川教会)



信者さんは、色々な地方出身の方が多かったのですが、その地方での信心話を色々聞かせて頂くことが出来て、

とても勉強になりました。

☆今、大学生の娘さんと高三・中三の息子さんがおられますが、色々な難しい時期ではないですか。

明 明

そんな大変と言うことはないですが、言っても聞かなかつたりすることもあります。でもそれでも言うべきことは言うようにしています。

今は解らなくても、耳に少しでも残っ

ていて、後で思い出してくれれば……と思って。また、私が教えられたことは、人の口を借りて教えて貰えれば、と願っています。

学校や職場・電車の中などで、ふとした人の会話などで、気がきがあればと思います。

☆先生が大切にされている御教えや言葉などはありますか。

明 そうですね。昔、母親から教えて貰った「起きてくることを無駄にしないように、起きてくることに無駄はない」と言う御教えを良く思い出して取り組むようにしています。生きていると様々なことが起きて来ますが、良いことも大変なこととも全てに興味があり、大切に取組んでいくように心がけています。

また「どうしよう、どうなるだろう……ではなく、しっかり願いなさい」とも、母親は教えてくれました。例えば子どもなことでも、不安がるばかりではなく、そんな時こそしっかり願わせて頂くようにしています。

ありがとうございます。

(今村 則子)



今日まで、連合会等で御用させて頂いて来た中で、いろいろと申したいことがありますが、三つ感じたことを書かせて頂きます。

### ①「情報開示を速やかにする」

ニューメディア時代を迎えております。連合会活動を瞬時にホームページあるいは連合会情報誌「かりん」に掲載し、そして各教会で、信奉者に配布する時は、ただ教会に置いておく事ではなく、手渡しをしながら、時間を作って目を通して下さいと言声をかけて、手渡しする気持ちが大切かと思えます。そして連合会の信奉者一人ひとりが、連合会活動を把握できること。

### ②「教会の垣根を超えて信奉者の交流をはかる」

先日の一泊研修会には各教会から大勢の参加者があり、盛会に終えることが出来ました。その折の「研修会アンケート」の中からひとつの設問「今回の研修会に参加して、感じられたこと、どんなことでも結構です。ご自由にお書き下さい」に対して、「もっと教会内で声を掛け合うなど、コミュニケーションをとり教会同士の交流を図る必要がある」というご意見がありました。

## これからの連合会

また、今年少年少女全国大会六十回目を迎えるに当たり、連合会で少年少女が一人でも多く参加して、御本部で多くの若人が集まって大会をしていることを肌身で感じて頂きたいとの思いから、連合会主催で、初めて企画を立て実現致しました。



少年少女全国大会のスナップ

た。参加された方々が寝食を共にすることによって、他教会の方々とも親しく話し合うことが出来、今後、連合会行事がある時、お会いさせて頂きましようと言って散会されたとのことでした。このように信奉者同志が交流出来る企画をもっと増やして行ければと思う。

### ③「教師・信徒が一体となつての布教」

教師と信徒は、それぞれが立場は違えども、お互いに「金光大神の道を世に現す」には、どうしたら良いかを忌憚なく語り合えることが、今求められている。そういう話し合いの出来る機会を多く作って行けるように願いたい。

## 言葉から伝わってくるものは

鎌倉教会 吉岡裕子

夏は暑くなくっちゃという私でさえ、今年、動く度に汗が流れ出るので、かなり扇風機やクーラーのお世話にもなった。

ところで、その猛暑・酷暑の真っ只中で残暑という言葉をあっちこちから耳にしたり目にしたりして非常に違和感を覚えたのだ。残暑は、立秋後の暑さを指すのだから間違っていない。しかし、今年は立秋に入った途端に猛暑となり、熱中症でバタバタと倒れる人も出るほどだった。流石に残暑というのも忍びなかったのか、「夏のご挨拶申し上げます」というお便りも届いた。同じようなことを考えている人もいるらしく、新聞の声の欄にも、残暑の表現についての投書を2・3目にしたほどである。多くの人が暑い暑いとへたばっている時、そして、8月のこれからが夏本番という時に残暑と言われてもピンとこない。特に天気予報などでは正確さを欠くというもの。実態に合ってなくて気になっている言葉は他にもある。母親不在の父兄もその一つだ。その分野について見識があると思われる方が、テレビ番組で父兄という言葉を使ったことを訂正してお詫びするというコメントが入った。かつては、父兄会などと、何の疑いもなく使っていた。それではとい

### 一泊研修会 吉川信雄先生

#### 講演後の質疑応答から

六月十六日(土)午後から行われました神奈川山梨教会連合会主催の「一泊研修会」が、年金保養センター「さがみの」にて開催され、一〇八名の方が参加されました。

前号にその要旨を掲載した「親子三代の信心」と題した感動的な講演を終えて、十分の休憩後、すぐに質疑応答に入りました。

●吉川先生は、なぜこのような広大なおかげを頂かれなのか、先生のお話から、親教会・親先生を立て抜く姿勢がお徳に繋がったと頂いたが…。

答〓おこがましいようだが、そうであろうと思う。両親は親教会を大切にしたいし、私自身も大切にしなければならぬと思っ

ている。  
●先生の一日のスケジュールを教えてください。

答〓朝は三時から、奥城でご祈念。四時からはお広前に移って、五時までご祈念をする。私の教会では、「二年間のお願ひ事」を祈願表にしたためて、一月の信徒総合祈願祭までに提出してもらっている。それを見ながら、毎日七、八人分から十人分くらいご祈念させて頂く。おかげを頂いたのは、赤い〇をつける。十二月には、ほとんど〇になるのが有難い。そして、十二月に

信徒総合感謝祭を仕える。

ご祈念終了後の五時半に開門、六時から勢祈念。十時からはお昼のご祈念。六時から夕方のご祈念。その間、食事以外は奥には入らない。手紙や原稿もお広前で書いている。いつどんな時に信者さんが悩みを持って来られるか解らないから、余程のことがない限り、お広前から下がらない。寝るのは十時。睡眠は若い時から五時間。睡眠は量より質だろうと思う。寝る前に「よく眠らせて頂きますように」とご祈念させて

(次頁に続く)



翌日は  
2班に分かれて三つの  
キーワードで懇親中



翌日の懇親会に参加された方々

うことで母を登場させて父母会となり、現在は保護者会が一般的だ。父や母のいない子どももいるので納得である。

兄弟というのも気になっている。2年生の国語の教材にスイミーというのがあり、その中に、魚の兄弟たちがという一文があった。多分、きょうだいという漢字を教えるためかと思われるのだが、魚にもメスもいるだろうと子どもたちと読んでいた。そして、教科書会社の人にも何度か申し上げたことがあった。それかどうかは分からないが、今では「ひらがな」のきょうだいなっている。きょうだいにもいろいろあるだろう。その実態に合わせて、兄弟姉妹を使い分けてルビをつけているのに出合うことがあるのだが、書き手の心遣いまで伝わってきて共感を覚えるのだ。これらは封建時代をひきずっている言葉と言えようか。その他、このように気になる言葉は身の回りにあふれている。そんなことどうでも良いと言えそうかも知れないが、言葉はその人となりや伝わってくるもの。心みがきとともに言葉みがきをして、豊かなコミュニケーションをしたいものだ。ひとつの言葉で元気にもなり落ち込むことにもなる。最近の「産む機械」「アルツハイマー」「脳死状態」「しょうがない」発言のように、取り返しのつかないことにもなる。

頂けば大丈夫。夜の行事がない時は、七時に閉門する。

◎先生が教会長になられて努力されていることを教えて下さい。

答 Ⅱ そんなに努力しているとも思っていないが、強いて言うなら、朝のご祈念。若い先生方にはよく言うのだが、「朝のご祈念だけは起きなさい。絶対に起きなさい。昼寝をしても良いから、朝は起きなさい」。

ところが、これが案外できていない教会

・先生がおられる。これでは、おかげは頂けない。あとは、お話をすることと、書くこと。私は学院の講師時代に、付いた仇名が「長話」というぐらいお話は長いが、お話を書いて残している。「はだし」という教会誌は五十七年続けていて、今六百七十六号になっている。講話はテープ起こしをして、記録に残しておけば、聴くことでも一度感動できる。お参りできなかった方も、聴くことができる。このお道は話を聞いて助かると言われるが、これからは、「読む信心」「書く信心」も心掛けてほしい。

◎お願いの中で、こんなお願いは困ると言うのはありますか。

答 Ⅱ 私は、お願いの選択はしない。例え泥棒したいというお願いでも受ける。ただし、「これを最後にしなさい」と言う。ご理解をすることで、初めは無理なお願いも、ちゃんとした願いになっていく。

◎お徳を積むにはどうすればいいのでしょうか。

答 Ⅱ お徳になるかメグリになるか、これは日常茶飯事のことと、一挙手一投足のことと言える。トイレに行って、スリッパを揃えて脱ぐか、パッと脱ぎ捨ててくるか。無駄な水の使い方をすればメグリになる。いつも人にいやな思いをさせないように、人に喜ばれるように心掛けることが大事。

限られた紙面ではご紹介できない、たくさんのお話があった中で、私が信者として心に留めたことが一つあります。それは、「おかげを頂いたら、時間でもお金でも一割はお供えするように」と言うくだりです。「財のおかけを頂いて、浮気して家庭がケメチャメチャになる、というような例は、おかげを頂いたことが、反ってメグリになっている。一割をお供えすることで、あとの九割は生きた使い方ができる。御用にお使い頂いたら、即お徳になる。お徳は、まさかの時におかけに展開していくのだから、おかげを頂くためには、出来る時にお徳を積んでおかねばならない」ということでした。これに限らず、聴いていらした方それぞれに、心に残った一言がきっかけだったのでしようか。

その後、和氣藹々のうちに懇親会、続いて二次会、いっそう信心話で盛り上がった

グループもあったようです。翌朝、吉川先生は高槻南教会での記念祭講話のため、早朝に出発されました。

先生は、七十五歳。二時間十五分の講話、一時間十分の質疑応答。そして翌日はまた大阪府で大祭講話。どこからそのようなパワーが出て来られるのか。やはり信心の力はすごいと思いました。

翌日は、九時から二十余名が二班に分れて、「人が助かる教会」「人が育つ教会」「お道を伝える教会」の三つのキーワードで懇談、今活き活きた教会を求めて、私たちに何ができるのか、を話し合い、十二時前に解散しました。

なお、頂いたアンケートを整理しましたところ、講演、質疑応答共に「よかった」と言う答がほとんど、「どちらとも言えない」というのが二通ありました。「こういう研修会があれば、また参加したいか?」という問いに、「一泊でも参加したい」と答えた方が十六名、「日帰りなら」という方が三十名。「今回は日帰りだけれど今後は一泊でも」という方が五名いらっしゃったことをスタッフ一同、嬉しく読ませて頂きました。毎年というわけにはいかなくても、二年に一度くらいは教師・信徒が一堂に会して勉強会を催し、忌憚のない意見交換をするのも意義あることではないかと感じました。(神奈川教会 大塚 東子)

神奈川 山梨教会連合会

生神金光大神大祭日程

教会名	日 程	時 間
小田原	10月21日(日)	14時00分〜
横浜西	10月21日(日)	13時30分〜
甲府	10月21日(日)	13時30分〜
南甲府	10月22日(月)	11時00分〜
津久井	10月27日(土)	13時00分〜
鎌倉	10月28日(日)	13時30分〜
登戸	10月28日(日)	13時00分〜
大 明	10月28日(日)	13時30分〜
横須賀	11月3日(祝)	13時30分〜
生 麦	11月3日(祝)	13時00分〜
丸 子	11月3日(祝)	13時00分〜
相模原	11月3日(祝) 併 布教二十年記念祭	14時00分〜
子 安	11月4日(日)	13時30分〜
鶴 見	11月11日(日)	13時00分〜
武蔵小杉	11月11日(日)	11時00分〜
大 磯	11月14日(水)	13時00分〜
野 毛	11月17日(土)	13時30分〜
川 崎	11月18日(日)	13時00分〜
平 塚	11月19日(月)	13時00分〜
神 奈 川	11月24日(土)	11時00分〜
藤 沢	11月28日(水)	11時00分〜

親子のつどい

「第60回少年少女全国大会」に初参加

「第60回少年少女全国大会」に、8才から18才までのわかば八名と大人八名の計十六名で参加することができました。金光教の活性化を願う中、何か一歩踏み出せないかという想いの中から実現した全国大会への参加でした。最初はどうかと心配していましたが、決めた限りは一人でも二人でも参加させて頂こうと進めて参りました。以前は、子安教会の村田先生が一人で関東教区のプラカードを持って行進したこともあったそうです。参加の十六名は、お揃いのTシャツを着て全国の仲間たちと賑やかに行進することが出来ました。

幸い、祭場近くの大坂教会の控所を使わせて頂きましたので、常設の催し物もたっぷり楽しめ、行進やわかば祭などは、控所に集合しては、休憩を取りながら参加することが出来て大助かりでした。

みんな初めての顔合わせとは思えないほど、大人も子どもも、お喋りをしたり遊んだりして、仲よく楽しく参加できたことは何よりも嬉しいことでした。

今も、子どもたちの笑顔や明るい声が聞こえてくるようです。この縁が何らかの形で続いていくことを願わずにはいられません。  
(鎌倉教会 吉岡 裕子)

〈な・が・れ〉

『教会は信心の稽古場所』

登戸教会信徒 國分 正 夫

いつ書き留めたのか、原稿用紙一枚に次のような文章が書いてありました。

「教会は、教祖広前の延長として、生神金光大神取次の道を実現する」「教会は、信奉者の願い礼場所、信心の稽古場所」

教会は、教祖広前の延長である。教祖広前にお参りする心でお参りしなければならない。神の意志によってできた生神金光大神取次の場、信奉者の願い礼場所、信心の稽古場所である。その自覚を持たねばならない。

先生が勝手にこしらえられた所へ行くのではない。助かりたい者は、できる限り足を運んで、生神金光大神取次に接し、おかげの基である信心の稽古をしなければならぬことになるのである。

そこで「神参りをするに、雨が降るから風が吹くからえらいと思うてはならぬ。その辛抱こそ、身に徳を受ける修行じゃ(御理解)と、仰せられている。一切が修行であるが、生神金光大神取次に接し、信心の稽古をすることが、直接身に徳を受ける第一の修行、根本の修行になるのである。

お願いすることがないからお参りしないなどと言うのは、もう信心が止まっており、おかげもそれ以上に伸びず、いや後戻りすることになる。

金光教神奈川 山梨教会連合会

発行者 須賀院 明 徳  
 編集責任者 村 田 光 治  
 川崎市中原区小杉御殿町二一八二  
 〒211-0068 金光教武蔵小杉教会内